

被災地におけるボランティア活動での注意点 ～避難所運営経験者の視点から～

1 基本的なマナー

避難所を訪れる際にボランティアの方に守ってほしいマナーです。

- ① 初訪問の際は自分の身元や所属を明らかにして来訪の目的を告げる
- ② 名札や腕章などボランティアの目印となるものを身につける
- ③ 写真撮影やメモなど記録のたぐいは許可を取ってから行う
- ④ 関係機関（受入先の市町村、他のボランティア団体）との情報共有を計る
- ⑤ 長期的に関わる場合は、訪問の期間や頻度を明らかにする
- ⑥ 相手の都合のよい時間に合わせて訪問する。避難所に沢山人がいる時間帯は朝と夜

2 よかったボランティア、こまったボランティア

ボランティアの方と接して感じた「よかった」点と「こまった」点を書きます。

<よかったボランティア>

- ① こまめにニーズを聞いてくれる人（例：定期的に避難所を訪れ「何か必要なものはないですか」と聞き、次の訪問時にそれを持って来てくれた）
- ② 自分の役割を分かっている人（例：毎日定時に体操ボランティアに来てくれた）

<こまったボランティア>

- ① 自分の基準を押し付けてくる人（例：避難所の食事や生活用品に注文をつける）
- ② 避難者を自分に合わせる人（例：自分の訪問時間を告げて避難者を集めようとする）
- ③ ボランティアが自己目的化している人（例：ボランティア活動に必要以上のやりがいを感じ、避難者や他の救援者を自分の活動につきあわせて振り回してしまう）

3 ボランティア活動における心構え

少し抽象的ですが、今後現地で活動する人は心に留めておいて欲しいことです。

- ① 「来たからには活動しなければ！」は危険。ある程度自治が確立している避難所では過剰な手助けが自主性を阻害する結果になることも…
- ② 「つまり～ですね」「じゃあ～して下さい」は禁物。耳を傾けるだけでも十分な支援
- ③ 専門家の正しい意見が歓迎されるとは限らない。何かを提案する際には、避難所の意見を聞いて慎重に進めること